

目次

写真図版（和田家資料「内留」嘉永六年から嘉永七年四月まで全四巻／お従様御結婚御引越より御婚禮迄御内証御記録）

「内留」嘉永六年から嘉永七年四月まで――幕末の始まり――

写真図版・解説 「内留」嘉永六年から嘉永七年四月まで

嘉永六年

正月

元日 年始の御祝儀（巻一―2） 2

十二日 お椿様、角田へ御下り（巻一―9） 9

十七日 御旗取り（巻一―12） 12

二十五日 御旗祭・具足御飾り、御役替え（巻一―14） 14

二月 与助草履下げ方（巻一―24） 24

十五日 お従様、諏訪宮へ御自筆御歌額御奉納（巻一―25） 25

十八日 源三郎様、下屋敷御住居仰せ進めらる（巻一―26） 26

二十六日 源五郎様、御殿へ御取移り（巻一―31） 31

三月 上巳の御祝儀（巻一―37） 37

十三日 お安様、種痘接種（巻一―41） 41

十六日 殿様御留守中御取締りの儀、仰せ付けらる（巻一―42） 42

十七日 殿様御上府（巻一―44） 44

二十二日 殿様、中田にて屋形様の御門送り（巻一―46） 46

二十三日 殿様御下着（巻一―47） 47

四月 味噌煮方（巻一―50） 50

十日 味噌合わせ方（巻一―54） 54

十七日 蚕棚釣り方（巻一―56） 56

二十三日 狂言御覧（巻一―59） 59

二十五日 天神宮御祭礼（巻一―60） 60

五月 旗立て（巻一―63） 63

五日 端午の御祝儀（巻一―65） 65

十日 殿様御上府、塩竈一の宮へ屋形様御名代（巻一―68） 68

十五日 恵鏡殿、下屋敷へ遣わさる（巻一―70） 70

十七日 源三郎様下屋敷へ御取移りに付、覚え（巻一―11） 75

十八日 八幡宮にて二夜三日の雨乞い（巻一―13） 77

二十日 源三郎様・恵鏡殿下屋敷へ御取移り、源五郎様表御住居へ御取移り（巻一―14） 78

二十一日 啓之進様初御誕生（巻一―18） 82

二十四日 斗蔵山にて雨乞い（巻一―19） 83

一日 お安様御病氣（巻一―19） 83

七日 干ばつに付、かしこ沼水汲み（巻一―24） 88

十日 お安様御誕生（巻一―25） 89

御旗取りに付、御物買・御切符番休番 仰せ付けらる（巻一―26） 90

十二日 重き御手伝い仰せ蒙らせられ候に付、仰せ渡し（巻一―27） 91

二十五日 八幡宮御神輿、六本杉へ出御、雨乞いの御祈禱（巻一―32） 96

二十七日 八幡宮御神輿、六本杉へ出御、雨乞いの御祈禱（巻一―34） 98

二十八日 御子様方御手元金御取立てについて（巻一―34） 98

七月 七日 七夕の御祝儀（巻一―37） 101

九日 殿様御上府（巻一―39） 103

十三日 お盆（巻一―40） 104

十五日 殿様御下着、中元の御祝儀（巻一―42） 106

二十四日 御役々へ精勤仰せ渡さる（巻一―45） 109

二十八日 公方様（十二代将軍徳川家慶公）薨去の御知らせ（巻一―48） 112

八月 一日 源三郎様、下屋敷の風儀について仰せ渡さる（巻一―49） 113

四日 お椿様、源三郎様へ借り渡し（巻一―55） 119

十五日 女中お秀、縁組願い（巻一―56） 120

二十五日 明月（巻一―64） 128

九月 三日 御父子様寺社御参詣（巻一―67） 131

五日 お貞殿出産、お頼様御誕生（巻一―70） 134

堀田家おしえ様（宝鏡院様母）御死去の御知らせ（巻一―75） 139

語句解説 303

人物解説 305

引用参考文献 315

凡例

- 一、本書は、和田家資料「内留」嘉永六年から嘉永七年四月まで、「お安様御結婚御引越御内証御記録第一」
- 一、「お従様御結婚御引越より御婚禮迄御内証御記録」を解説したものである。
- 一、和田家資料「内留」嘉永六年から嘉永七年四月までは、全四巻二百六十二丁。大きさは、全巻ほぼ同じ大きさを縦26cm×横16.5cm。全紙縦二つ折り、四つ目綴。一部、裏面を再利用したものがある。
- 一、各巻の丁数・資料番号は次の通り。
- 一、巻一「嘉永六年正月元日より四月晦日迄」 六十四丁（資料番号74891）
- 一、巻二「嘉永六年五月朔日より十月朔日迄」 九十二丁（資料番号74892）
- 一、巻三「嘉永六年十月朔日より十二月晦日迄」 三十八丁（資料番号74893）
- 一、巻四「嘉永七年正月元日より四月七日迄」 六十八丁（資料番号74894）
- 一、「お安様御結婚御引越御内証御記録」は、六丁。「内留」（資料番号74893）の9から14頁裏面に書かれている。（資料番号74898）
- 一、「お従様御結婚御引越より御婚禮迄御内証御記録」は、三十二丁。大きさは、縦29.5cm×横18.5cm。（資料番号74891）
- 一、所蔵は、いずれも角田市郷土資料館である。
- 一、文書の解説は、上段（写真図版・中段（翻刻、読み下し）・下段（語句解説）で構成した。下段（語句解説）で、項目のみ記載されているものは、調査中のものである。
- 一、読み易くするため、適宜読点・並列点を加えた。台頭・平出・欠字は、原文に合わせた。
- 一、翻刻は、出来るだけ原文で使用されている字体を用いた。読み下しは、常用の字体、仮名づかいを用いた。
- 一、助詞の「に（二）」は「者・整」、「へ（江）」は「て（而）」と「并」は、小さい文字にした。
- 一、漢字の繰り返し記号「一」は「同」、「△」は「より」、変体仮名は、常用の仮名を用いた。
- 一、本文の行間に書き加えられた文字は、本文に組み込んだ。本文余白に追記された部分は、余白（上）「余白（下）」などと記し、条や頁の終わりに記した。
- 一、文意の通じない文字や間違っている文字には「ママ」、疑問の箇所には「カ」と記した。
- 一、付け加えた方が文章が整うと思われる語句については、括弧書きにして付け加えた。
- 一、判読できなかった文字や欠損部分は、字数が明確な場合、文字数分の□や影印で、不明な場合は、□と記した。文字が推定される場合は、□の中に文字を記した。
- 一、「ママ」は、筆者が文字を見せ消す（もとの文字が読めるように訂正した消し方）にしたことを表す。重ね書きで訂正された文字は、後に書かれた文字で判読した。
- 一、解説では、年齢を数え年で表した。
- 一、年間を通じた主な出来事を目次としてまとめた。
- 一、主な語句解説・人物解説・引用参考文献は、巻末にまとめて記載した。
- 一、文書の解説は、前角田市郷土資料館館長新庄屋元晴・角田市郷土資料館調査員氏家若子、本書の執筆・編集は、氏家が担当した。